

## 第6回「関西広域産業ビジョン」改訂委員会 議事骨子

- 1 とき 令和5年12月26日(火)午後2時45分から5時まで
- 2 ところ 立命館大学 大阪梅田キャンパス 5階 演習室2・多目的室
- 3 出席者 稲田座長、葛西委員、水野委員、小笠委員、久米委員、  
中山委員、黒木委員(上村委員及び丸山委員は欠席)  
中原広域産業振興局長、事務局

### 4 議事概要

#### (1)「関西広域産業ビジョン」の改訂に関する意見交換

○「関西広域産業ビジョン」改訂版(案)の最終確認について

#### (2) その他

○アクションプランについて

○スケジュールについて

### 5 議事

#### (1)「関西広域産業ビジョン」の改訂に関する意見交換

#### 【P.3 『01 関西広域産業ビジョン』通じて成し遂げたいこと】

##### <委員>

- ・ 図のイメージが伝わるよう、将来像やめざす姿は具体的に書き込むほうがよい。複数の矢印で表現されているアプローチについて、例えば線の長さは意味があるのか等特に理解しづらい。
- ・ 主体が不明瞭なため、ビジョンの位置づけが分かりにくい。また、説明文が時系列に沿っているところとそうでないところが混在しており、図とのリンクをどう読めばいいか悩んだ。

##### <事務局>

- ・ 後述にて検証も含めビジョンの各要素を説明する論建てをしているため、入口部分で全ての要素を表記するのは違和感があり、イメージ図にとどめている。それが逆に読み手に混乱を招いているのは否めず悩ましいところ。ビジョンを通じて成し遂げたいこととして伝えたいのは、“こんなことを目指している”というビジョンを作成する意義や意図である。それを言語化し、共有したい。
- ・ 連合策定のビジョンが上位で、その目標を達成するために府県市や企業がビジョンに沿って行動するものではなく、各プレイヤーの自己のパーパスに

基づく活動展開が基本。各プレイヤーの活動(=やるべきこと)で関西が発展することは、各プレイヤー自身にも、そして日本の発展にもつながる。ビジョンはそのような作用をもつ提案型であり、それを図で表現したい。タイトルも含め、試行錯誤している。

<委員>

- ・ ビジョンは行政計画のため、「自己」よりも、「各主体」や「各プレイヤー」という表現のほうが合うと考える。また、「成長の意義を共有」という表現も伝わりにくいいため検討が要る。
- ・ 「引き寄せられる」とは、マッチングという意味なのか。

<事務局>

- ・ 「成長の意義を共有」という表現は、意図を端的に表しきれていないのは否めない。「産業としての」という枕詞は、関西広域連合が設定する事務の分野を特定するという意味。表現は検討する。
- ・ 「引き寄せられる」とは、各プレイヤーが互いに触発され関わり合う中でマッチングしていくことや、関西に魅力を感じたプレイヤーが外から入ってくるということ。また、自己完結的なアクションで終わるのではなく、(引き寄せられることで)オープンイノベーション的に他者と関わる中で成長が加速というイメージもある。

<委員>

- ・ 関西産業の将来をともに豊かなものに作り上げるために存在するビジョンということなので、タイトルに「～ために」と追記してはどうか。
- ・ 共同主体(産官学、構成府県市、連合等)を明確化(明記)してはどうか。
- ・ 将来像=ビジョンという説明を追記してはどうか。
- ・ 持続的な成長の実現が、関西産業の豊かさにつながると記載できると、ストーリーとして分かりやすいと考える。

<座長>

- ・ 現行案は5つの文章で記載されているが、内容的につながるセンテンスである程度まとめたほうが分かりやすいかもしれない。
- ・ 事務局の説明を聞く限り、具体的なゴールを設定するというよりも、ゴールを実現するための方法・やり方をイメージしていると受け取った。

<事務局>

- ・ 関西広域連合の認知度が決して高くない中で、連合に関わりの少ない方にとって、関西広域産業ビジョンの取り扱いは難しい。ビジョンはどのようなものなのかイメージをつかんでもらい、それを脇に置きながら自分たちの活動の参考にしてもらうこと、関西が発展することは自分も含むみんながハッピーになる、ベターな世界が作れるという考え方を共有すること、ビジョンはそ

のような存在でありたいという思いを込めている。連合が策定するからといって、各プレイヤーのパーパスを害するものでもないというニュアンスが伝わればよい。

- ・ 「ビジョンで成し遂げたいこと」というタイトルには、連合が自己満足で発信して終わりということではなく、他の主体とも共有して“両想い”になりたいというニュアンスを含めている。

<委員>

- ・ 各文章はある程度まとめたほうが分かりやすい。
- ・ 図におけるビジョンの位置づけがどこか分かりにくい。

<事務局>

- ・ 一般的には、将来像がビジョンにあたると思うが、本案では、現在地を確認し将来像に向けたアプローチを示すということも含め、全てを産業ビジョンとして整理している。

<委員>

- ・ “各プレイヤー”と“地域”の違いが分かりにくい。ある程度ストーリー的に説明できれば、各プレイヤーの活動が積みあがって地域になるのか、あるいは地域の目的が最初に存在しプレイヤーがそれを意識しながら活動するのか等、両者の関係性が分かりやすくなると思う。
- ・ タイトルは、「産業ビジョンの位置づけ」とするとより伝わりやすいのではないか。

<座長>

- ・ イノベーションを生み出すというニュアンスはどこかで表現できないか。

<事務局>

- ・ このスライドで目指したいのは、認識をしてほしいということ。ビジョンをすべて読んだうえで戻ってきたときに、そういうことかと分かってもらえればよい。

各府県市でも、企業においてもビジョン(目指す姿)を作っている。それぞれの取組があり、でも、同じような方向を向いていて、各主体の活動が制約されるものではなく、将来像を共有・認識しながらそれぞれがすすんでいく、ということを最初に伝えたい。試行錯誤の結果、アプローチは違えど同じ方向に向かっているというイメージが大事だと考え、表現した。

<座長>

- ・ 「ビジョン改訂の際に最初に留意したこと」はどうか。読み手が事務局の提示したものやビジョンで重視したものに納得できればよいと考える。「成し遂げたいこと」とするといろいろな意味を含み、連合の役割や図が伝わりにくいのではないか。

<事務局>

- ・ 作り手(事務局)の意図は伝わるが、一方通行のようになって感じる。ビジョンを読んでいる人と共有したいというのが主眼。ビジョン策定にこめた思いというのが近い。各委員のご指摘とベースは同じであり、表現は検討する。

【P.15 「06 関西チャレンジ 3つのチャレンジの相関図(イメージ)」】

<座長>

- ・ 図ではイノベーションが両端に記載されており、どこでイノベーションを起こしているのか理解しづらい。チャレンジ①と②が横にらみの独自のステージにあり、融合し、引きつけ合いながら、チャレンジ③で産業基盤の強化により関西のポテンシャルがぐっと向上することにより、成長がうまく回りだすイメージと理解した。

<委員>

- ・ チャレンジ①と②が遠い位置にあり、少しイメージしにくい。各チャレンジが関連しながらできあがっていくイメージだと思うので、全体を網羅できる図にできればよいと考える。また、各チャレンジの内容(チャレンジ①強みで貢献、チャレンジ②強みを活用、チャレンジ③強みを発揮)が分かりやすい図になればよりよい。

<委員>

- ・ チャレンジ①～③が相互に関係するということは表現できていると思うが、一番エッジが効いているチャレンジ①を②③で支えるというような、重みづけが表現できるとよい。
- ・ 作用に注目しすぎると、とがったポイントが見えづらくなる。
- ・ 相関図を挿入せずとも、各チャレンジのアプローチの中で表現できればよいかもしれない。

<事務局>

- ・ チャレンジ①～③の項目出しは前出スライドで説明しているため、このスライドでは、3者の関係性を図示したい。各チャレンジは複数の作用をもつため、すべての作用を示すのは難しい。①～③の関係性を象徴的に伝えるのは“成長の好循環”である。立体構造も検討したが、見やすさを重視してシンプル化した結果、現行案になった。ただし、チャレンジ①と②の関係性の表現の工夫は必要と考えている。少なくとも、チャレンジ①②とチャレンジ③との関係性として、連動して好循環を作るとというのが一つのメッセージ・キーポイントになるため、それは表現したい。

## 【P.16 「万博のインパクトを活用した成長シナリオ」】

### <委員>

- ・ 今回のビジョン改訂のトリガーである。具体的に書いてあり、分かりやすい。

### <座長>

- ・ 万博世代という概念は不要か。1970年の万博を小中学生として経験した世代が今もその体験を覚えているように、2025年の万博を経験した若者がターゲットイヤーである2040年に活躍していることが期待できる。時間軸を広げる拡張万博の考え方で、万博のレガシーをうまく活用するということ。

### <事務局>

- ・ その視点はフォローできていなかった。2040年を目指し脈々と続く連動性の中の成長シナリオのアイデアの一つとして上手く展開し、みなで共有し意識しておくポイントだと思う。反映の工夫をしたい。

## 【P.17 「関西広域連合のバリュー(存在価値)」】

### <委員>

- ・ バリューは大きな概念だが、既存事業を記載すると範囲が狭まる印象。ビジョンに含めるべきか検討すべき。

### <事務局>

- ・ 連合のポテンシャルとして4つのバリューを対外向けにしっかり発信する一方で、今は何をしているのかという表現についても、見せ方を工夫したい。

## 【全体のまとめ】

### <座長>

- ・ ビジョン改訂において重要視している考え(主に01のスライド)を含め、事務局案に大きな異論はないが、読み手に意図がストレートに伝わる工夫を。もうひと踏ん張り頑張っていたいただきたい。
- ・ 本日現在調整中となっている検証を含め、資料の整えは多く残っている。特に検証はバックデータも揃っているため、できたこととともにできなかったことも含め、ビジョンで伝えたいところにつなげるかたちでバランスをとって考察すべきと考える。

### <事務局>

- ・ 検証については現在深堀中。少なくとも現行ビジョンに書かれている、“やる”といったことの振り返りは必要で、5点をポイントとしてピックアップ。

## (2) その他

### <座長>

- ・ 今後策定するアクションプランについて、万博では広域連合のブースも出展すると思うが、アクションプランにも関係するか。

### <事務局>

- ・ 当産業ビジョンとの直接的な関わりはない。万博は連合全体としてのブース出展となり、各府県市の魅力発信のゲートウェイになる。産業も一部門としてどこまで盛り込めるかについては、これからの検討となる。

以上